

高知県立と市立が合体した「オーテピア」

オーテピア高知図書館



お隣の高知図書館は、従来の県立と市立の図書館が合体して運営されており、全国でも初の試みだそうです。名称は公募で選ばれた「オーテピア」、元追手前小学校の跡地に建てられたことに由来します。2018年7月に開館しました。

県と市がどのように話し合って合築を実現したのか、とても興味のあるところです。市が運営する「声と点字の図書館」が1階に、「みらい科学館」が5階に併設されており、『高「知」の樹』をコンセプトに設計されました。

2階に上がると、「この建物が東西に55cm程度移動する」という説明がありました。巨大地震などの災害に備えた免震装置が設置されており、建物自体の免震構造は「市民の命と知識の宝庫を守る砦」を担っているということです。

2階の入り口から図書館ゲートに入ると、明るい天井と書架との通路が見えて、全体に温かな雰囲気を感じました。ガラス張りの書庫が中央にあり、それを囲むように開架がありました。

壁に沿って読書静寂室2カ所とグループ室が3カ所、その他各種の閲覧席があり、ゆっくり読書を楽しめるよう配慮されていました。一般書や参考書の2階、専門資料などが揃う3階も、同様の部屋と研究個室等が設けられていました。4階には、ホールや集会室と、90席ほどの学習室があり、全体で500席は用意されています。

2階に1カ所、3階に3カ所のレファレンス・サービスに司書を配しており、こどもカウンターを設けるなど、利用する市民に十分な配慮がされていました。岐阜市立中央図書館と同様、多少の会話は許されるようになっていました。

また、ここは高知市の中心地で、北側の追手筋では歴史ある日曜市、南には商店街があるので、私なら日曜日など日がな一日図書館を中心にうろついていたいと思いました。

梶原町立図書館「雲の上の図書館」

もうひとつ高知が誇る図書館が、梶原（ゆすはら）町立図書館です。「雲の上の図書館」として、ご存じの方も多いと思います。2018年に梶原町と縁の深い隈研吾の設計で建てられました。

梶原町の杉をふんだんに使った建物は、大きくはないが、木の香りとぬくもりが感じられるものでした。靴を脱いで上がり込むような感覚は、地元の人々の家に来たような気分になりますね。

長居はできなかつたのですが、帰り際に見た開架の棚には思わず笑ってしまいました。川本三郎の『マイ・バックページ』と『全共闘白書』に挟まれて、山本義隆の『私の1960年代』があるじゃないですか。その上の棚の『丸山眞男集』の横には、吉本隆明の単行本が50冊以上はあったのでしょうか。開架でこれほど揃えてあるのを見たことがなかったので、にんまりした次第です。ここの司書、職員の方々や、この図書館作りに携わった町の人々に敬意と親しみがわきました。人口3000人程の山間の小さな町に、こんな素敵な図書館があるなんてと感激しました。

岩倉 浩元



雲の上の図書館

あなたはどんな図書館が欲しいですか。皆さまのご意見ご要望をお寄せ下さい。

武井事務所は月曜から金曜の10時～16時に開けています。お気軽にお立ち寄り下さい。



生き活き政治ネット

松山市衣山2-4-47、2F
TEL/FAX 089-924-2485
ikiiki@cnc.e-catv.ne.jp

2026年5月1日発行

平和憲法を守るための緊急アクション

国会前緊急アクション(4/8)



この日、全国47都道府県165カ所で行われ、緊急アクションが行われ、松山市駅前でも230人も人が集まりました。初めてデモに参加する方が多く、高市首相の改憲に危機感を募らせ、マイクを持ってスピーチする姿に勇気を得ました。

3月25日の国会前では、歌手の坂本美雨さん（2023年3月に亡くなった坂本龍一さんの娘）が「戦争したくない。愛する人を殺してほしくない。殺されたくない。殺したくない。当たり前のことを、私たち一人ひとりが自分の持てる限りの力で言わなくてはいけない」とスピーチしました。

ウクライナ、パレスチナ、イラン。ひとたび武力を使うと、罪のない市民が犠牲となり、報復の繰り返しで、戦争に終わりが見えません。武力に頼らない平和を構築するために、私たちは平和憲法を手放してはならない、強く訴えていきたいです。

高市政権は、防衛費の大幅な増額、武器輸出三原則の見直しなど、着々と戦争ができる国へと準備を進めています。ついに、高市首相は、自民党大会で改憲発議に向けた具体的な日程にまで言及しました。

今、多くの若者たちが全国で平和憲法を守ろうと緊急アクションを繰り広げています。

4月8日は、ペンライトや思い思いのプラカードを持った3万人の人たちが、国会を囲みました。



松山市駅前に掲げられたパネル

女性参政権80年 女性の政治参画は進んだか？

これまでに愛媛から選出された女性国会議員は3人、県内の女性議員率（2026年3月）は、県議会8.5%、市議会20%、町議会9.8%、女性ゼロ議会は21議会中4議会、まだまだですね。政策決定の場のジェンダー平等をどう進めるか、女性参政権80年の節目の年にみんなで考えたいと思います。

これに先立ち、愛媛での「3・8国際女性デー」の取り組みを知りたいと、第1回集會に参加した方々から、貴重な報告をいただきました（2～3面）。先輩たちの歩みが私たちの今につながっていることに思いをはせ、私たちの歩みが未来の女性へのプレゼントになるよう、頑張りたいなあ。

※5月から始まる「議会に女性をチャレンジ講座」(3回シリーズ)をご案内します。

(第1回『わたしたち』の声が届く政治を目指して～若者・女性の政治参画促進の活動から』のチラシを同封させていただいています)



国際婦人デー50周年記念 第1回えひめ国際婦人デー

国際婦人デー50周年を記念して「松山でも集会をやりたいね」と数人の発議で、第1回えひめ国際婦人デーが開かれました。

あの頃は、労働組合の青年婦人部の活動が活発で、いろんな職場で「うたごえサークル」なども生まれていました。

私は、全電通労働組合の婦人部で、三宮禎子さんと「生理休暇を取ろう」や「お茶くみ反対」などの運動に取り組んでいました。当時、電通では「合理化」が急激に進められ、電話の「何番へ？」と手動でつながっていたものが、機械化によって交換手の大量の人べらしが大問題になっていました。

私たちは、国際婦人デーでこの問題を取り上げ、シュプレヒコールで訴えようと決め、電話局の寮に泊まり込んで、みんなで智恵をしばって原稿もねり上げました。「合理化」というのは、科学の発達によって人間は便利になりますが、そのことによって労働者が苦しめられるのはいけないと「労組」の課題になったのです。

「パンと参政権」を求めて全世界の女性たちが連帯して立ち上がる国際婦人デーは、働く女性たちを大きく励まし、私たちの「シュプレヒコール」も大変好評でした。

いま高市政権により、政治が「大軍拡」「憲法改悪」など危険な方へむかっていますが、これに対して多くの女性たちが不安に思い、怒りの声を上げ始めています。今こそ男も女も一人一人が人間として尊重される社会をめざして「戦争はイヤ、憲法を守れ」の声を強く、大きく掲げる時ではないでしょうか。

谷田 慶子 (89歳)

進歩しながら続けられた集会のパワー

2026年国際女性デー愛媛
大街道での街頭アピール



1960年3月8日夕、国際婦人デー第1回愛媛集会が、松山市の道後公会堂で350名が参加して開かれました。ちょうどその50年前に、クララ・ツェトキンらによって「国際婦人デー」が世界的に提唱された年でもあり、日米安保条約の改定が問題になった年でもありました。

松山でも、池田節さんや深津（現・谷田）慶子さんらが準備を進めており、私たちの「女性史サークル」も呼びかけを受けて構成劇で参加することにしました。脚本は、篠崎勝先生（愛媛大学教授、近代史文庫代表）の助言も受けながら、みんなが参加して作りました。日本・中国・朝鮮の女性の戦争の惨禍と、それを超えて平和と国際連帯への希望を描きました。出演もオール・スター・キャストで、和服の篠崎先生も。

開幕と同時に、ハミングは何と！軍歌「ここは御国を何百里……」、観客は??でしたが、「日本の婦人の悲しみと苦しみは戦争から離れて考えることはできません」とのナレーションで始まり、「世界中の婦人の解放のため頑張りましょう」と終わりました。好評だったと記録にはあります。

この日ゲストとして東京から参加された飯田しづえ氏（婦人民主クラブ）は、この台本をコペンハーゲンの国際集会に持参したいと持ち帰られました。

なおこの日、安保条約改定についての話し合いや反対決議もされたと記憶しています。66年前の話です。女性史サークル機関紙『むぎ』の記録と僅かな記憶で辿りましたが、現在までその時々々のスローガンとともに進歩しながら続けられた集会のパワーを思います。急テンポで進む時代、若い力を信じてみるか！

※ 当時は「婦人」の呼称が使われていました。

川又 美子 (女性史サークル)

手書きのポスターに導かれて 松山集会参加の記憶



もう66年もの昔の1960年3月8日、私は妹と街に出かけ、電停前の電柱に貼られていた手書きのポスターにひき寄せられた。

『国際婦人デー参加へのおさそい』—3月8日：道後公会堂一への案内。「こんなのがあるんだって、行ってみようか」。私たちは道後公会堂に急いだ。それがお昼か、夜かの記憶が定かではない。公会堂の二階の会場に急ぐ女性たちが次々に履物を脱いで二階に上がっていく。たちまち広い畳敷きの会場が一杯になった。私達は会場の真ん中に座を占めていた。

集会の中身はすでに記憶から消え去ったが、唯、熱気が漂っていた記憶がある。集会の最後に議長は「安保条約改定反対の決議を集会の参加者全員で行いたい」旨の提案をし、「では決議に反対の人」という声には私は「ハイ」と手を挙げた。手を挙げたのは私一人。議長は「なぜ反対なのですか」と問い、私は「安全保障条約のことをよく知らないのに賛成できない」と言うと、議長は「誰か説明できる人はおられますか」と言い、それに応じて男性の大学生が勢いよく走り出て来て「安保条約は軍事同盟で……」と説明した。議長は「わかりましたか」と問い、私は「よくわかりません」と答えたが、再度の採決には「保留」にした。他の参加者は一様に「賛成」に挙手をした。議長は「保留した方はどこの職場ですか」。私は

「県庁です」と答え、議長は「これからお勉強しましょうね」と結んだ。

私はこんなに多くの女性みんなが知っていることを私達だけが知らなかったことに驚き、恥ずかしかった。1週間後、労組の書記さんが職場の私を探し当て、組合に誘い学習会にも誘ってくれた。後日、集会参加の全員が条約の内容を知っているのではない事実も知ったが、以来、66年間、年一回の集会の概ね60数回には参加し今日がある。その私も早や89歳、あっという間ではあった。

山本 翠

山本さん(2026年3・8)



(3月8日) 国際女性デーに寄せる アントニオ・グテーレス国連事務総長メッセージ

今年の「国際女性デー」は、すべての女性と女兒のための権利と行動、そして正義に焦点を当てています。

世界全体で見ると、女性が享受する権利は男性のわずか64%にすぎません。

法的な差別は、女性の暮らしのあらゆる側面に影響しかねません。財産の所有や離婚の請求、夫の承認を得ない就業が禁止されることもあります。40を超える国々では、夫婦間レイプは犯罪として認められていません。その他、女性の教育へのアクセスや、子どもに市民権を継承させる能力、さらには外出する自由さえも制限する法律があります。

法的保護がある場合でも、差別や執行の不徹底によって、女性は司法や法的支援へのアクセスに苦労しているのが現状です。

こうした不公正な法律の多くは、数世紀も前から施行されています。しかし現在、私たちは新たに危険な動きを目の当たりにしています。権威主義の台頭や政情不安の増大、家父長制の定着を目指す新たな圧力の高まりを背景に、より公正な労働保護からセクシュアル・リプロダクティブ・ライツ（性と生殖に関する権利）に至るまで、苦労して勝ち取った前進が逆転を強いられています。

私たちは一致団結して、持続可能な開発目標（SDGs）と北京+30行動アジェンダの約束を果たさねばなりません。差別的な法律や慣行と闘うとともに、これまでに達成された進展を守ることによってこそ、私たちはすべての女性が当然享受すべき尊厳や機会、そして自由を確保できるのです。

私たちが法の下で平等でなければ、真に平等とは言えません。今こそ、あらゆる場所の女性と女兒に正義を実現すべき時なのです。